Information

花とみどり

埼玉県のマスコット「コバトン」

Vol.63
2010.2.19

春

春：安行で育成されたサクラ'安行寒桜'

夏

夏：アジサイの咲く自然池

秋

秋：もえるようなモミジのトンネル

冬

冬：ケヤキ広場の雪景色

埼玉県花と緑の振興センターは、約2.3haの敷地に豊富な種類のツバキ、ウメ、ツツジ等を始めとし、「コニファー園」、「花木園」、「カラーリーフ園」など、様々な樹木類を展示しております。

四季折々、様々な姿で皆様をお待ちしております。

彩の国
埼玉県花と緑の振興センター

生産者紹介

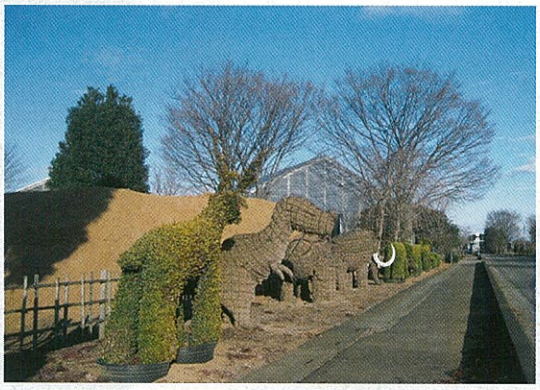
●第38回 日本農林業賞
（特別賞）受賞者

村越 兼人 氏

大里郡寄居町で、観葉植物の斑入りヤブランを中心としたグランドカバープランツの専作経営を行っています。年間70万鉢・全国シェアの5割を占めるヤブランの大規模栽培体系を確立しました。また、地元の雇用促進、遊休農地の解消など、地域貢献にも積極的に取り組んでいることが評価され、受賞されました。

1. 経営の特徴

斑入りヤブランを中心に年間170万鉢のグランドカバープランツを、家族4人と雇用12人で、周年生産出荷を行っています。特に、全国シェアの5割・年間70万鉢を出荷している斑入りヤブランは、独自に確立した大規模栽培体系に基づいています。販売は、高品質・安定生産のブランド力で、受注生産による相対取引で、数年先の注文を受けて計画生産体制を敷き経営の安定を図っています。



しかし、現状に甘んじることなく、常に先を考え積極的に新品目の導入・試作・新品種の育成にも力を注いでいます。

また、労働環境にも気を配り、家族経営協定の締結を始め、従業員に対しても女性の視点での配慮や福利厚生の充実など、労働力の安定化を図っています。

2. 技術の特徴

「環境によい作物は、環境によい栽培方法で」をモットーに、近隣の養鶏農家から引き受けた鶏糞堆肥等、有機質肥料を主体とした健全な土づくりを行っています。そのことにより、健全な種苗が生産でき、病害虫防除のための薬剤散布もほとんどなく、人や環境に優しい栽培が可能となっています。また、雑草管理も除草剤に頼らず、手除草を主体とするなどエコファーマーの認定を取得しました。一方、機械化により省力できる所は、積極的に機械を導入し、作業効率を高めています。

3. 地域農林業への貢献

規模拡大に伴い親株の養成畑や施設用地として借り入れた約11haの周辺農地は、高齢化や担い手不足による遊休農地が多く、これらの有効利用に貢献しています。さらに、パート雇用の12人は、地域と連携して地元の中高齢者を積極的に採用し、雇用機会を提供しています。また、カバープランツで作成した恐竜や動物のトピアリーは村越ナーセリーの看板となっており、子供や地域の人々をはじめ、道行く人の目を楽しませています。商品開発を兼ねた身近な場所でのPRのみならず、秩父ミューズパークにオリジナルのヤブラン1万株を植栽し観光資源としての提案をするなど、広域に渡る地域おこしへの協力も惜しみなく行っています。

4. これから

斑入りの葉の美しさにほれ込んで主要品目としたヤブランですが、今後は花にもこだわってオリジナル品種の育成を手がけようと意欲的です。また、海外に向けていた目をもう少し国内に向けて日本在来植物に息吹を吹き込み、元気のない花植木業界に一石を投じようと目を輝かせています。

斑入りヤブラン

「伝統園芸植物」ブース

「ジャパンフラワーフェスティバル2009 in 東京 丸の内」に出展

平成21年4月21日～26日に東京丸の内で開催された「ジャパンフラワーフェスティバル2009 in 東京 丸の内」の「伝統園芸植物」のブースに出展協力をしました。埼玉県の花「サクラソウ」をはじめ、五葉松盆栽、エビネ、万年青やいわひばを、昭和初期に活躍した農具と共にレイアウトしました。行幸地下ギャラリーのショーウィンドウに華やかな押し花や洋花が並ぶ中、レトロな「和」の展示に足を止める人も少なくありませんでした。

緑の衣作戦を実施しています

埼玉県では、植物を利用して屋上や壁面を緑化することにより、環境改善や夏の気温上昇を抑える実践活動を『緑の衣作戦』と名付けて進めています。

緑の衣作戦は建物を緑化し、夏場の直射日光を遮り、地域温暖化の進行やヒートアイランド現象を抑制しようとするものです。昨年度の結果では、'緑のカーテン'によって、窓際の最高温度が5℃低くなった事例がありました。

オカワカメのカーテン

花と緑の振興センターでは、県民の方が興味を持って自ら家庭や職場で取り組めるように、'おいしくたべよう緑のカーテン'をテーマに、今までにない新しい作物の緑のカーテンへの利用を実証しています。そこで、食育にもつながり収穫の楽しみも味わえるような新しいカーテンに取り組んでいます。おいしく食べて、楽しく、涼しく、さらに地域に調和した景観づくりの緑化に取り組むことを目標に様々な緑のカーテンを実証しています。

本年度は7種類の植物を用いた様々な場面での緑化にとりくみ、その他に屋上庭園やのり面の緑化の展示を行ってきました。その中で、緑のカーテンとしてオカワカメ、シカクマメ、エアーポテトの3つの植物が来園者に大変好評でした。マスメディアにもとりあげられ、各方面から問い合わせも多数ありました。そこで、好評だった3種類の植物については、来年度以降も県庁舎などの緑化に利用していただき、県民の方へ普及啓発になればと考えています。

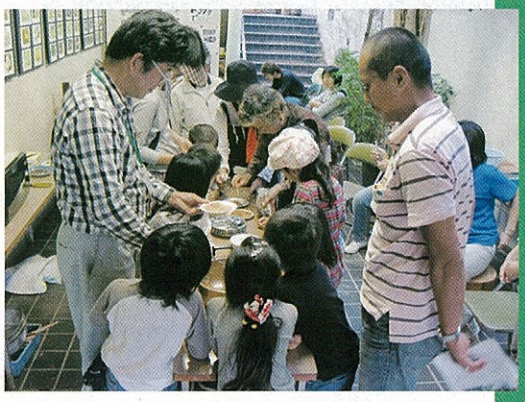
オカワカメのおひたし

オカワカメはツルムラサキ科のツル性の宿根草で、短い期間に葉が茂りますが脇芽があまり出ず厚くならないすっきりしたカーテンができます。ツルムラサキの仲間なので、ゆでるとヌメリが出て、独特の食感があり栄養価も高くおいしくいただけます。シカクマメは、節ごとにかわいい青い花がつき、ヒダのついたユニークなサヤができます。陽あたりのよい場所が向きます。エアーポテトは大きな葉のつけねに、大きなムカゴができます。ムカゴは拳2つほどの大きさになるものもあり、その姿から宇宙イモとも呼ばれます。ヤマイモの仲間ですから、少しクセはありますがムカゴをすりおろしたり、煮たりして食べるととても美味しいです。

シカクマメの収穫

エアーポテトの実

「第69回秋の安行植木まつり」に協賛参加


"ドングリで遊ぼう"

㈶川口緑化センター主催の「第69回秋の安行植木まつり」(平成21年10月10日～12日開催)に、当センターを会場にした講習会を開催しました。安行四季彩マットを使った卓上ミニ植木マット作りや、マツボックリ・ドングリを使った工作・お菓子作りなど、来園者の皆様に楽しい時間を過ごしていただきました。初めての試みでしたが、大変好評で、今後も機会があるごとに地元のイベントに参加して、当センターをPRしていきたいと思います。

Prunus属の新病害 プラムポックスウイルス*1に注意!

平成21年4月に、我が国では発生報告のなかった「プラムポックスウイルス」による植物の病気が、東京都青梅市の梅園で確認されました。このウイルスは、モモ、スモモなどPrunus属*2の植物などに広く感染する植物ウイルスで、1915年にブルガリアで発見され、その後、欧州、アフリカ、アジアの一部、北米及び南米一部で発生が確認されています。

このウイルスに感染・発病した植物の病徴、及びウイルスの性質は以下のとおりです。

1)宿主植物は、モモ、スモモ、プラム、アンズ、ネクタリン等のPrunus属核果類植物で、セイヨウタンポポ、ナズナ等の草本植物からも感染の報告がある（今回、青梅市で発見されたウイルスの系統（D系統）は、オウトウやサクラには感染しないとされている）。

2)伝播方法は、アブラムシによる媒介、及び感染穂木の接ぎ木、感染苗木の導入等の人為的な移動がある。種子や花粉伝染は報告がなく、生果実からの自然感染はない。

3)病徴は、葉に緑が退色した斑点・斑紋や黄色輪紋が見られ、花弁に薄赤色の斑入り症状が見られるが、品種により症状は異なる。海外での報告には、モモ等の果実の表面に輪紋や斑紋が生じ、早期落下が見られた例もある。

東京都、神奈川県での発生を受け、農林水産省が全国規模の発生状況調査を実施し、本県でも平成21年6月に調査を行いましたが、これまでのところ、対象地域43区域の全てのほ場で発生は認められませんでした。県外の発生地域においては、全て伐根・焼却処理を行っていますが、近隣での発生が見られたことから、今後も十分な注意が必要です。防除対策として、以下の点に留意し発生を防ぎましょう。

1)薬剤散布等によるアブラムシ防除の徹底
2)アブラムシの発生源となりうる周辺雑草の除去
3)感染樹の除去
4)無病健全な穂木・苗木の導入

万が一、葉や花弁、果実に見慣れない症状が見つかった場合には、速やかに関係機関に報告しましょう。

ウメの花弁の症状

ウメの葉の症状

*1：このウイルスの正式和名は、まだ決定されていないので、正式英名「Plum pox virus」の音訳である「プラムポックスウイルス」を用いました。

*2：Prunus属の範囲については異説がありますが、ここでは従来から用いられている区分に従っています。

※写真提供:農林水産省横浜植物防疫所

研修の紹介

●花植木専門研修

花植木の生産振興を目的に、生産や経営等に係る幅広い情報を花植木生産に関わる方々にお伝えするための研修です。

参考）21年度開催実績（抜粋）

- 「花のネットビジネスの今後の展望」（6/8に開催）
  株式会社 ウェルネス　代表取締役社長　長澤 真也氏
- 「日本庭園と新樹種について」（6/15に開催）
  株式会社 緑創　代表取締役社長　三上 常夫氏
- 「ホームセンターの花と緑の販売戦略」（10/2に開催）
  ドイト株式会社　ヘッドチーフ　柳下 和之氏

「ホームセンターの花と緑の販売戦略」

●造園技術研修

植木生産者及び造園業に携わる方々を対象に、造園需要に対応できる知識と技術を習得するための研修を開催しています。造園技能検定1級、2級相当のレベルをめざし、全8日間の実技中心の研修です。22年度は5月下旬頃から受付予定。

日本庭園施工実技

※最新の情報は、花と緑の振興センターのホームページで御覧いただけます。

Information 花とみどり
平成22年2月19日発行

発行所／埼玉県花と緑の振興センター
発行人／埼玉県花と緑の振興センター　所長　関根家松
〒334-0059　埼玉県川口市安行1015　TEL：048-295-1806　FAX：048-290-1012
HP　【3月末まで】http://www.pref.saitama.lg.jp/A06/BQ30/index/ichi.htm
【4月1日以降】http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k32
E-mail　h951806@pref.saitama.lg.jp

PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい植物油型インキと、再生紙を使用しています。